渡嘉敷神社

この小さな神社があるのは、渡嘉敷村の西側の渡嘉敷港から道伝いに約 700m 離れたクミチジ山の麓に位置します。島が農業と漁業に依存していた時代、住民は豊作と大漁と健康・安寧を祈るためにこの神社を訪れました。現在は、地域の祭事や祈りなど全般的なものは渡嘉敷神社で行われ、航海安全や大漁祈願などの海の関係については、海神宮で行われています。

明治（1868–1912）初期まで、この神社を管理していたのは琉球信仰の女性司祭である祝女ノロでした。1879 年に日本が沖縄を併合するとノロ制度は廃止され、現在は、地元の区長が神社の管理人を務めています。

神社の入り口には石造りの鳥居があります。その柱の 1 つの背面には「昭和 12 年（1937）1 月 27 日」との刻印があります。島内の多くの建造物と異なり、鳥居が第二次世界大戦終結時の米国による爆撃を免れたことを示しています。鳥居をくぐる前に、帽子を脱いで神社の方へ一礼しましょう。（境内へ入る際には左手にある神社の鐘に注目してください。古く錆びついたダイビングタンク製です！）社へ向かう道では、神様の通り道である中央を歩かないようにします。参拝するには賽銭箱へ小銭を入れて、二礼二拍手一礼をしましょう。

神罰の概念に基づいた琉球信仰は、伝統的に日本の古語で捧げられていました。しかし今では、祈祷は分かりやすい日本語になっています。多くの参拝者にとって親しみやすく、人々の暮らしに近い存在として感じてもらうために地元の区長が日常のテーマから書き上げたもので、天罰にもさほど重点を置いていません。古語は、冒頭と締めの部分のみに使われています。

年間を通して催される儀式

神社では、年間を通して多数の儀式が催されています。その大半は、現代の暦よりも月齢に沿った、旧暦と呼ばれる古い太陰暦に従うものです。

5 月の第 15 日（太陰暦）

ウマチー：人々が豊作を祈り、初穂を供えます。

6 月の第 15 日（太陰暦）

ウマチー：人々が収穫に感謝を捧げます。

6 月の第 25 日（太陰暦）

渡嘉敷大綱引き：綱引きは沖縄の古くからの伝統です。綱は稲ワラで作られ、全員が稲作をしていた時代には、村人たちは収穫した米からワラを寄付していました。集落 2 チームの旗頭の飾りは、渡嘉敷神社に保管されています。

DESIGNER: LINK TO NO. 2/Tokashiki Tug of War

10 月（太陰暦）

種取り祭り：かつて、これは年間で最も重要な祭りでした。前年の稲刈りから良い種籾と悪い種籾が分けられ、良い種籾は来季の田植え用として農家へ配布されました。種籾の配布は地元の農協が行うようになりましたが、祭りは未だに継続されています。

12 月（現代の暦）

末御願：1 年間を無事に過ごせたことに人々が感謝します。

1 月 1 日（現代の暦）

初詣：新年で初めての参拝。鐘が鳴り、来る年の幸運を人々が祈ります。

1 月

初御願：その年初の祈りを捧げます。